

活 力 づ く り

令和 4 年度 目的別事業群総括管理（決算）シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出
施策の将来の目標像	大学や試験研究機関が蓄積してきた知的資産の価値をより高め、優れた知的資源を様々な分野で一層活かしていくことで、イノベーションや地域連携により多くの社会課題を解決するような活力あふれる都市となっています。		
施策の数値目標	指標	現状値（H30年度）	目標値（R6年度）
	4 大学との連携事業数	129 件	145 件

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 大学等の知的資源を活かしたイノベーションの創出環境の充実	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	大学の知を社会につなぐイノベーション・エコシステムの構築	現状	大学と市が一体となったまちづくり推進体制の強化が必要	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
大学の特色を活かした地域社会課題解決に向けた取組みの具体化が明確になっていない		イノベーションの創出に向けた仕掛けやハブ(拠点)づくり	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(ア) Town&Gownの取組を通じたプロジェクト、共同研究の数	7 (R2)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	9	10	10	11 (R6)	件
			10	9		81.8%	
			111.1%	90.0%			
(イ) COMMONプロジェクトの認定件数(累計)	5 (R3)		5	10	20	35 (R6)	件
			5	17		48.6%	
			100.0%	170.0%			
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費(千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R3年度		37,500		245,817		10,080千円
		17,673		15,016		
R4年度		144,040		299,890		
		16,563		12,582		

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額	R4 当初予算額
				R3 決算額	R4 決算額
1-1	2-1-7 Town&Gown推進事業	政策推進監	1.60	37,500	144,040
				245,817	299,890
合計			1.60	37,500 245,817	144,040 299,890

7 R4 事業費の分析 (差額 = 「R4 年度当初予算額」 - 「R4 年度決算額」) ※決算額には繰越を含む。

差額	分析
-155,850千円	次世代学園都市構想の実現に向けて、取組みに賛同する企業からの寄附金が見込みを上回ったことで、補正予算により事業規模を拡大させた。

8 R4 成果指標の分析 (成果指標の平均達成率)

平均達成率	分析
130.0%	COMMONプロジェクトをはじめとするTown&Gown Officeの活動プロジェクトを推進し、概ね目標を達成することができた。

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	大学の人材・施設・専門知識や企業の知見を活用し、本市の地域課題解決等に向けた事業を推進した。共同研究の採択件数は目標を下回ったが、翌年度以降に地域課題解決を促進する体制づくりに努めた。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	大学の知的資源、企業の人材や技術、企業版ふるさと納税等を活用し、効率的な事業運営に努めた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	広島大学における大型の競争的資金の獲得により新たな研究拠点形成に向けた動きがあり、研究者や企業の集積につながる環境整備が進んだ。

10 総合評価

総合評価	<総評>
A	「東広島市次世代学園都市構想」に基づく事業として、「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」でTGOアプリの開発に着手するなど、取組みが着実に推進できている。

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針
「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」への企業の参画や、次世代学園都市の形成に向けた取組みは進んだが、地域にとって直接的な成果が見えにくい側面がある。	地域(市民や地元企業)と情報共有や意見交換を進めながら、次世代学園都市構想に基づいた土地利用計画を検討するとともに、地域課題解決に向けた取組みを推進していく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出	① 大学等の知的資源を活かしたイノベーションの創出環境の充実

事業の概要				
戦略	1	イノベーションの創出に向けた仕掛けやハブ（拠点）づくり	予算 144,040 千円	決算 299,890 千円
事務事業	1-1	Town&Gown 推進事業	予算 144,040 千円	決算 299,890 千円

内容

1-1_Town&Gown の推進による新たなまちづくり

大学と市が共同で地域社会における課題の解決に取り組むため、広島大学内に Town&Gown Office を設置し、大学との研究推進体制・機能の充実強化を行ったほか、新たなイノベーションや、世界から起業家や研究者たちが集まる持続可能なまちづくりに資する事業を展開した。

※Town&Gown … 市の行政資源と大学の教育・研究資源を融合しながら活用することで地方創生を実現し、持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指すもの。

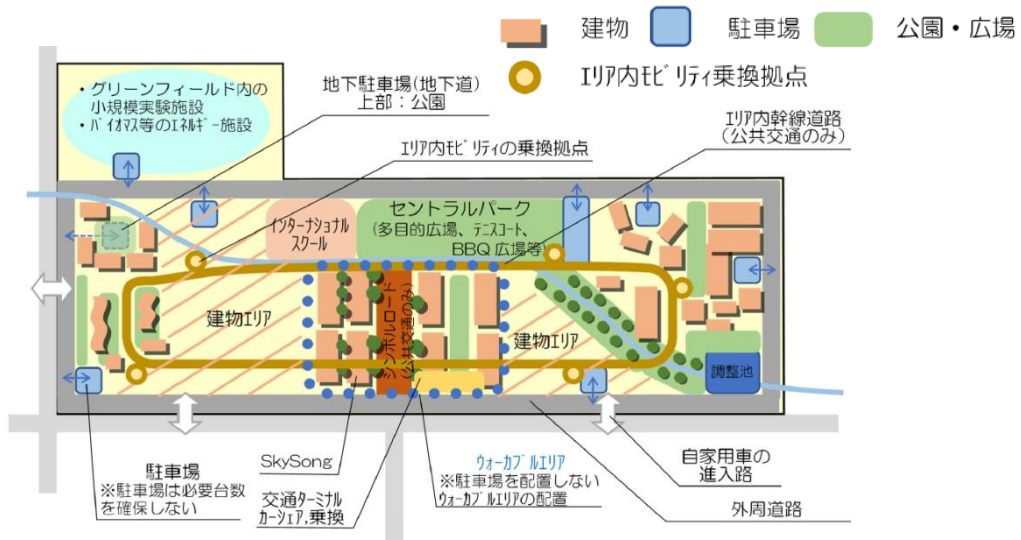


広島大学 Town&Gown Office ロゴ

①次世代学園都市構想に基づく事業展開（16,540 千円）

「次世代学園都市構想」（令和3年度策定）に基づき、広島大学スマートシティ共創コンソーシアムのまちづくり分科会などで議論し、ハード面を中心としたエリアデザインを策定した。

広島県と連携した「ゆとりと魅力ある居住環境の創出」も意識しながら、今後の事業展開を目指していく。



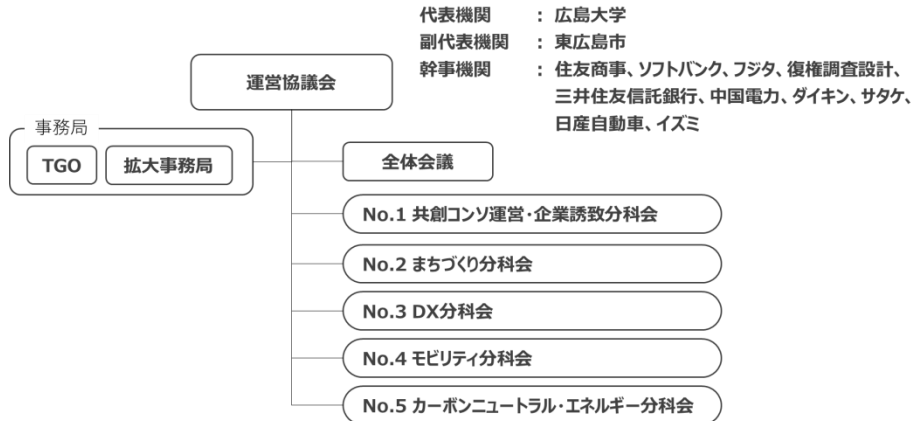
未開発地域（グリーンフィールド）の形成イメージ

事業の概要

②次世代学園都市構想の実現に向けた基盤構築（260,000千円）

令和3年7月、内閣府から認定を受けた地域再生計画（東広島市まち・ひと・しごと創生推進計画、認定期間：令和3年度から令和6年度まで）を推進するため、企業版ふるさと納税を活用して、広島大学と共に、次世代学園都市構想を実現するための基盤構築に取り組んだ。

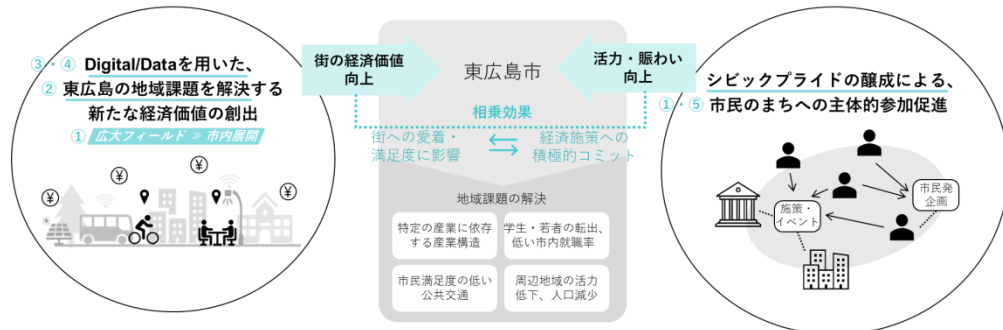
取組みの推進母体 広島大学スマートシティ共創コンソーシアム



データ連携基盤の世界観 → TGOアプリ

コンセプトの重要要件となる5要素

- ① 大学型モデル
- ② 東広島地域の課題解決に資するサービス
- ③ TGOアプリ具体施策（民間サービス連携）
- ④ 公的個人認証（マイナンバーカード活用）
- ⑤ CRM連携・市民展開シナリオ



モビリティ基盤の世界観 → MaaS車両

スマートシティに必要な社会基盤の一つとして、多様なモビリティサービスを検証し、誰もが快適で便利に過ごせる街を目指す。



事業の概要

③Town&Gown Office の運営及び活動プロジェクトへの支援(9,500 千円)

国際的研究拠点東広島形成に向けた取組み及び大学と一体となったまちづくりマネジメントを推進するため、広島大学と共同で Town&Gown Office の運営及び地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行った。

【Town&Gown Office の主な取組み】

項目	概要
COMMON プロジェクト (共同業務の日常業務化)	市の社会課題と大学の研究テーマをマッチングさせ、日常的に協議する場を設けることで地域社会の課題解決に取り組む。
新たなまちづくり (次世代学園都市構想)	産学官民連携によるスマートシティ化、ゆとりある居住空間、企業との共同研究拠点の形成などを旨とする。
カーボンニュートラル	太陽光発電、地中熱など再生可能エネルギーを徹底活用するとともに、周辺地域を巻き込みながら、「行動変容」を促進する仕組みも取り入れることで「再エネ型経済社会」に貢献する。
スマートキャンパス 5.0	次世代通信技術(5G 及びローカル 5G) を基盤として、大学キャンパス及び周辺地域における Society5.0 の実現を目指す。

【拡】④大学連携政策課題等共同研究 (13,850 千円)

市内大学の知的・人的資源を活用し、行政課題の解決や重点施策の推進に向けた共同研究を行った。

【活動指標】

共同研究採択件数 5 件

【成果・課題】

共同研究採択件数については、年 10 件程度を見込んでいたが、5 件(課題解決共同研究型 4 件、初期研究支援型 1 件)の採択にとどまった。一方で、複数年の研究や COMMON プロジェクトに係る仕組みを整理し、翌年度以降に地域課題解決を促進する体制づくりに努めた。

【令和4年度採択共同研究テーマ】

(課題解決共同研究型 4 件)

研究テーマ	研究内容
■教育と福祉の連携を通じた効果的なヤングケアラー・若者ケアラー支援の検討	・ヤングケアラー・若者ケアラーが抱えているニーズを把握し、包括的な支援体制の構築を検討する。
■土砂災害の防止・軽減に向けた研究 ～土石流等の発生予測のための大雨と地下水位・水圧変化の関係の解明及びその空間的把握～	・降雨状況に応じた危険度の状況変化と、早期対応につなげるための情報発信の手法等を調査・検討する。
■子どもの運動嫌いや運動量の減少に関わる要因の検証 ～IT 教育の推進と自動コーチングアプリ開発への発展～	・子どもの運動嫌いを解消するとともに、運動嫌いの小学生の特異的な運動能力指標を検証する。
■東広島市道路整備事業の新たな評価指標の作成とシミュレーションモデルによる有効性の検証	・広島大学所有のデジタル道路マップを基盤に生活道路を含めた東広島市全域の道路ネットワークを構築し、新たな評価指標を提案する。

(初期研究支援型 1 件)

研究テーマ	取組内容
■Town-Gown 協働による(仮称)県央自然史博物館を核とした「知」の基盤整備と地域創生	・試験的な博物館展示を実施し、中山間地域における交流人口等の検証を行う。

令和 4 年度 目的別事業群総括管理（決算）シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出
施策の将来の目標像	大学や試験研究機関が蓄積してきた知的資産の価値をより高め、優れた知的資源を様々な分野で一層活かしていくことで、イノベーションや地域連携により多くの社会課題を解決するような活力あふれる都市となっています。		
施策の数値目標	指標	現状値（H30年度）	目標値（R6年度）
	4 大学との連携事業数	129 件	145 件

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 大学との連携によるまちづくりの推進	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	大学との有機的な連携の促進	現状	まちづくりにおける大学との一層の連携が必要	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
大学の強みを活かした連携が不十分		大学の特色を活かしたまちづくり	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 4大学との連携事業数	129 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	136	139	142	145 (R6)	件
			145	164			
			106.6%	118.0%		113.1%	
(4)	()				()		
(5)	()				()		

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	R 3 年度	5,620		10,080		10,458千円
		2,658		1,268		
	R 4 年度	10,368		9,280		
		5,958		4,200		

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	1 学術研究機能の発揮による都市活力の創出	② 大学との連携によるまちづくりの推進

事業の概要				
戦略	1	大学の特色を活かしたまちづくり	予算 10,368 千円	決算 9,280 千円
事務事業	1-1	大学連携推進事業	予算 10,368 千円	決算 9,280 千円

内容

1-1_大学との連携事業の推進

大学との連携による魅力あるまちづくりを進めるため、市内4大学の学長等とトップミーティングを行うとともに、大学の特色づくりや魅力づくりを支援するなど、より強力な戦略的パートナーシップを構築しながら大学との連携事業を推進した。

①大学との連携体制の構築（9,280 千円）

【新】ア 市内大学への Town&Gown の展開の検討（うち7,138 千円）

大学の特色に応じた連携体制を構築するため、市と大学が一体となったまちづくりを行う Town&Gown の市内大学への展開を進めた。

(ア) 近畿大学

Town&Gown Office 準備室を設置し、連携して取り組むプロジェクトの組成や Town&Gown Office の組織体制の構築を進めた。



Higashihiroshima × Kindai
Town & Gown Office

近畿大学 Town&Gown Office ロゴ



学生ワークショップ

(イ) 広島国際大学

Town&Gown Office 準備室の設置に向け、先進事例や地域課題の調査を進めた。

【拡】イ エリザベト音楽大学との連携（うち1,522 千円）

エリザベト音楽大学と大学の特色に応じた連携体制を構築し、大学を活かしたまちづくりを推進するため、エリザベト音楽大学が実施するコンサート等に係る費用を補助し、市民向けのコンサート等を実施した。

事業の概要

(7) エリザベト音楽大学親子コンサート

0歳児から親子で一緒に楽しめる参加型コンサート「こどものためのミニオペラ 人魚姫と海のなかまたち」を実施した。



親子コンサート

(イ) 東広島市立美術館との連携によるコンサート（年2回）

東広島市立美術館と連携し、音楽と美術の異なる分野のコラボレーションを実施し、来館者に新しい視点での芸術の楽しみ方を提供した。

第1回：戸川幸一郎作品展の一部として、絵本の読み聞かせと生演奏やライブペインティング等を実施

第2回：東広島市美術展入賞作品に対し、曲を選定して生演奏を実施



第1回（ライブペインティング）



第2回（東広島市美術展での生演奏）

(ウ) 市内中学校の音楽関連部活動への支援

東広島市吹奏楽実技講習会を実施し、大学の専門技術を活かして市内の中学校11校の音楽関連部活動への技術指導や交流を行った。

【活動指標】

コンサート及び部活動支援4件

【成果・課題】

大学の特徴を活かしながら、コンサート及び部活動支援4件を実施し、親子、美術館来訪者、音楽関連部活動の学生といった様々な市民に芸術に触れ合う機会を提供し、交流を促進した。

ウ 大学との連携の推進

大学と市との組織的な連携の支援や連携事業の推進に関する内部調整及び事業整理を行うなど、大学との連携に資する取組みを行った。

令和 4 年度 目的別事業群総括管理 (決算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	2 多様な豊かな市民の力が輝くまちづくり
施策の将来の目標像	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら、あらゆる場面で活躍をしています。また、転出者を含め、市外に暮らす方々も、東広島市に愛着を持ち、何らかの関わりを持ちながら本市の活力づくりに寄与しています。		
施策の数値目標	指標	現状値	目標値 (R 6 年度)
	市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24件(H30年度)	30 件
	人口の社会増加数	364人/年 (H22~30年度の平均)	400人/年

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 多様な人材力が発揮できる環境の充実	主管部局・所属	総務部 政策推進監
関係部局・所属			

3 目指す姿と戦略

目指す姿	学生の地域活動の促進	現状	学生をはじめとした人材の力が発揮できる環境が整っていない	
課題	→	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
学生が地域を知る機会が少ない 学生と地域との交流・連携が少ない		学生と地域との交流連携の促進	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24 (H30)		27	28	29	30 (R6)	件
			30	46		153.3%	
			111.1%	164.3%			
(4)	()	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率				()	
(7)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費(千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	3年度		13,875		12,409	5,733千円
			13,875		12,409	
	4年度		18,100		17,379	
			18,100		17,379	

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	2 多様な市民の力が輝くまちづくり	① 多様な人材力が発揮できる環境の充実

事業の概要					
戦略	1 学生と地域との交流連携の促進	予算	18,100 千円	決算	17,379 千円
事務事業	1-1 学生の地域交流連携促進事業	予算	18,100 千円	決算	17,379 千円

内容

1-1_学生と地域との交流・連携の促進

①広島県留学生活躍支援センターの運営費負担（1,500千円）

留学生の受入促進や生活・就職支援を一元的に行う広島県留学生活躍支援センターの活動を通じて、留学生の受入促進及び生活・就職を支援した。

※会員：大学、短期大学及び高等専門学校、日本語専門学校、行政機関、経済団体及び国際交流団体

市内留学生の推移 (単位:人)

R1	R2	R3	R4	R5
1,680	1,766	1,374	1,072	1,642

※住民基本台帳在留資格が「留学」であるもの(各年3月末の人数)



留学生による農業体験
(西条町吉行)

②学園都市づくり交流会議の運営（15,879千円）

大学と地域との交流を通じて、相互理解と親睦を深め、大学の地域への定着を促進し、文化の薫り高い学園都市づくりに寄与するため、大学、市、関係機関で組織する学園都市づくり交流会議を運営した。

※構成団体

広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学、東広島市、東広島商工連絡協議会、ひろしま農業協同組合、一般社団法人東広島青年会議所、東広島市スポーツ協会、東広島市文化連盟、公益財団法人東広島市教育文化振興事業団

学生数の推移(市調べ) (単位:千人)

H30	R1	R2	R3	R4
16.8	16.7	17.0	17.2	17.2

※広島大学、近畿大学、広島国際大学の市内キャンパスにおける学生数

ア 学生の地域活動の促進

大学・学生と地域との交流・連携を促進し、学生の成長や地域への愛着を促進するため、学生の様々な活動や体験が可能となる機会の創出を図るとともに、地域で主体的に活動するための支援を行った。

(7) 地域体験ツアーの実施

学生が地域や地域活動に興味や関心を持つきっかけとなる地域体験ツアーを市内6か所で全7回開催した。



地域体験ツアー（豊栄町）



地域体験ツアー（福富町）

(1) ひがしひろしま学生×地域塾の開催

学生の地域活動を促進するため、学生自らが企画し、地域での活動を促進するためのノウハウを学ぶ「ひがしひろしま学生×地域塾」を開催し、地域活動を実践する個人、学生団体を支援した。

また、「地域おこし実習」「学生協働支援隊」とあわせて活動報告会を開催し、学生と地域それぞれの視点からの情報共有や意見交換ができた。

（活動団体：11団体）

学生の地域活動報告会

日程	令和5年1月15日(日)
場所	東広島芸術文化ホールくらら サロンホール
発表内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ひがしひろしま 学生×地域塾 ・町家を活用した学生企画の活動報告 ・地域おこし実習 広島大学の授業の活動報告 ・学生協働支援隊 吉川及び福富での活動報告



(ウ) 学生ローカルパートナー制度

地域をフィールドにして学生と地域との連携による活動を行う学生団体を「学生ローカルパートナー」として認定し、伴走的な支援を行った。

学生同士の意見交換や企画・プロジェクトの検討から実施までを行う過程を通して、他大学や他団体の学生等によるネットワーク構築及び交流促進を行うとともに、学生同士が連携した新たな活動や地域課題の解決にチャレンジできる環境づくりを行った。

（参加団体：6団体）



学生団体のワークの様子



市職員との意見交換

事業の概要

(I) 学生と地域とのコーディネート機能の充実

学生と地域との連携促進を図るため、地域ニーズなどの情報収集・情報発信を行うとともに、コーディネーターを配置し、地域課題と学生の地域活動のマッチング等の相談体制を充実させた。

また、学生の部活動等の一環としてスポーツを通じて地域とつながる支援を行った。



わくわくママチャリ
3時間耐久レース (河内町)

イ 学生の主体的な活動への支援

学生の主体的な地域活動を促進するため、本市をフィールドとした学生の活動を支援した。(支援件数：5件)

ウ 学生の拠点づくり (町家プロジェクト)

西条酒蔵通りの町家における学生のD I Y活動等の定期的な企画やアントレプレナー教育の研究活動等を通じて、学生の活動拠点形成や学生の活動を中心とした賑わいの創出を図った。



(ア) 学生企画イベントの実施

夏休み期間を中心に、学生が企画し、子どもや地域住民向けのイベントを実施した。(実施件数：8件)



(イ) 学生によるD I Y改修

広島大学教員や専門家職人の監修のもと、学生が伝統的な建築技術を学ぶワークショップを開催し、D I Y改修を行った。



学生参加による改修の様子

エ 大学と地域との融合促進

(ア) 地域と大学との交流を促進する活動への支援

本市の学園都市づくりへの市民参画を促すため、大学等が主催する地域と大学の一体感の醸成が期待されるイベントを支援した。(支援件数：3件)

また、大学や学生が開催するイベント等に関する広報支援を行った。

(イ) 学生に向けた情報提供の充実

学生の地域活動支援等や暮らしに関する情報提供を行うため、新入生に対し、本市の魅力伝えるための情報誌の配布を行った。

【活動指標】

コーディネートした学生の地域活動件数 46 件

【成果・課題】

新型コロナウイルスの影響の緩和や、西条酒蔵通りの学生拠点（町家プロジェクト）での活動が進み、地域活動件数は大幅に増加した。

学生にとっては成長や学び、地域にとっては課題解決につながる活動となるよう支援を継続する。

令和 4 年度 目的別事業群総括管理 (決算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	2 多様な市民の力が輝くまちづくり
施策の将来の目標像	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら、あらゆる場面で活躍をしています。また、転出者を含め、市外に暮らす方々も、東広島市に愛着を持ち、何らかの関わりを持ちながら本市の活力づくりに寄与しています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
	市がコーディネートした学生の地域活動件数(年間)	24件	30件
	人口の社会増加数	364人 (H22~H30年度の平均)	400人/年

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 移住・定住の促進とにぎわいや交流の創出	主管部局・所属	地域振興部 地域づくり推進課
関係部局・所属	建設部	災害河港課	
	産業部	ブランド推進課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	国内外から様々な人材が集まり、それぞれの多様性を活かしながら本市の活力づくりに寄与する。	現状	特に周辺地域において高齢化・人口減少が進み、活力が失われつつある。	
課題	仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
移住検討者に対し地域の魅力を効果的に発信し、多様化するニーズに応じた相談体制を構築すること	周辺地域への移住・定住の促進		高	1
海岸地域の魅力の発信を効果的に行い、賑わいや消費、交流の起点となる場所を整備すること。	海を活かしたにぎわい創出機能の形成		低	2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 定住サポートセンターへの移住相談件数	31 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	50	52	54	56 (R6)	%
			50	33		58.9%	
			100.0%	63.5%			
(イ) 定住サポートセンター相談者の移住世帯数	8 (H30)		25	26	27	28 (R6)	%
			23	20		71.4%	
			92.0%	76.9%			
(ウ)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	3年度		851,084		746,899	17,640千円
			210,084		111,599	
	4年度		18,898		72,151	
			14,698		72,151	

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額	R4 当初予算額
				R3 決算額	R4 決算額
1-1	2・1・9 移住促進広報事業	地域づくり推進課	0.50	4,068	4,269
				3,718	4,153
1-2	2・1・9 移住者等支援事業	地域づくり推進課	0.75	10,806	11,775
				4,117	5
2-1	8・4・2 港湾沿岸地域再編事業	災害河港課	0.55	10,224	2,854
				2,100	5,103
2-2	2・1・7 道の駅整備事業(繰越明許)	ブランド推進課	1.00	825,986	0
				736,964	62,890
合計			2.80	851,084	18,898
				746,899	72,151

7 R4 事業費の分析 (差額 = 「R4 年度当初予算額」 - 「R4 年度決算額」) ※決算額には繰越を含む。

差額	-53,253千円	分析	移住に関する相談は多かったが、令和4年度は補助金を交付する事例がなかった。
----	-----------	----	---------------------------------------

8 R4 成果指標の分析 (成果指標の平均達成率)

平均達成率	70.2%	分析	各種移住支援制度や受け入れ住民側との連携を図るなどによる相談体制により、引き続き移住の受け入れを行っていく必要がある。
-------	-------	----	---

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	定住サポートセンター利用者のうち、特に周辺地域への移住に結びつけることを目的に、各種移住支援を実施し、20世帯の移住へ結びついた。そのうち、周辺地域への移住は10世帯となったことから、定住サポートセンターでの取組みは適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	定住サポートセンターの運営に加え、移住者等創業支援事業、移住促進特設ウェブサイト「風と自由と東広島」の運営事業の実施について、一定の効果が出ており、概ね経済的・効率的であった。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	コロナ禍においても、オンラインによる相談もあり、外的な要因による影響は大きくなかった。

10 総合評価

総合評価	A	<総評> 周辺地域の社会減が続いていることから、定住サポートセンター利用者のうち、特に周辺地域への移住に結びつくことを目的に各種移住支援を実施した。全体では20世帯の移住に結びついた。
------	---	---

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針
周辺地域の社会減が続いている。 また、定住サポートセンター利用者のうち、移住に結びついた世帯数が目標値を下回った。	→ 周辺地域の社会減が続いていることから、各種移住支援や効果的な情報発信を継続し、定住サポートセンターや受け入れ住民側との連携体制により、周辺地域への移住・定住を促進していく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	2 多様な市民の力が輝くまちづくり	② 移住・定住の促進とにぎわいや交流の創出

事業の概要			
戦略	1 周辺地域への移住・定住の促進	予算 16,044 千円	決算 4,158 千円
事務事業	1-1 移住促進広報事業	予算 4,269 千円	決算 4,153 千円

内容

1-1_移住・定住の促進に向けた情報発信

① 移住促進特設ウェブサイトによる移住関連情報の発信（3,882 千円）

移住促進特設ウェブサイトを運営し、ウェブ広告配信等を活用して本市の魅力を発信した。



移住促進特設ウェブサイトのトップページ

② 広島県交流・定住促進協議会等と連携した定住フェア等による移住関連情報の発信（271 千円）

広島県、広島県交流・定住促進協議会、広島広域都市圏と連携し、東京における定住フェア・セミナーにおいて、移住検討者に対し本市の魅力を発信した。



定住フェアの様子

事業の概要						
戦略	1	周辺地域への移住・定住の促進	予算	16,044 千円	決算	4,158 千円
事務事業	1-2	移住者等支援事業	予算	11,775 千円	決算	5 千円
内容						
1-2_移住・定住の促進に向けた支援						
① 定住サポートセンターによる総合相談窓口の運営（5 千円）						
移住検討者が求める住まい、しごと、子育てなどの情報提供や相談をワンストップで受け付け、関係部局と連携し相談内容の解決を図った。						
② 移住者等に対する各種補助金の交付（0 千円）						
ア 移住支援金の交付（0 千円）						
地方創生移住支援金制度を活用し、東京圏から市内に移住し、かつ市内へ就業に至った者に対し支援金を交付する制度であり、相談等は数件あったが、令和4年度は申請に至らなかった。						
【支援金（定額）：単身世帯 60 万円、2 人以上世帯 100 万円】						
【活動指標】単身世帯 1 件、2 人以上世帯 5 件						
【活動実績】0 件						
イ 移住者等創業支援事業補助金の交付（0 千円）						
周辺地域（志和町、福富町、豊栄町、河内町及び安芸津町の区域）における産業の活性化及び定住の促進を図るため、移住者又は移住予定者（市内の周辺地域外からの転居者も含む）が、市内周辺地域において新たに創業する場合に、店舗、事務所等の改修費、設備費、備品購入費の一部を補助する制度であり、相談等は数件あったが、令和4年度は申請に至らなかった。						
【補助率：1/2、補助限度額：200 万円】						
【活動指標】3 件						
【活動実績】0 件						

事業の概要			
戦略	2	市外に暮らす方々と地域との交流や本市の活性化に資する拠点の整備によるにぎわいの創出	予算 2,854 千円 決算 67,993 千円
事務事業	2-1	港湾沿岸地域再編事業	予算 2,854 千円 決算 5,103 千円
内容			
2-1_港湾周辺施設の整備			
① 安芸津港湾沿岸地域再編ビジョン提案業務 (5,103 千円)			
みなとオアシスの登録に向けた作業を行った。			

事業の概要			
戦略	2	市外に暮らす方々と地域との交流や本市の活性化に資する拠点の整備によるにぎわいの創出	予算 2,854 千円 決算 67,993 千円
事務事業	2-2	道の駅整備事業（繰越明許）	予算 0 千円 決算 62,890 千円

内容

2-2_道の駅整備

① 道の駅整備業務（62,890 千円）

（うち R3 年度からの繰越分 62,890 千円）

道路利用者に快適な休憩や安らぎを与える場を提供するとともに、市の観光資源や特産品の魅力発信等を行うため、道の駅を一般国道 2 号西条バイパス沿線に整備した。

名称：道の駅西条のん太の酒蔵（公募した名称から選定）

所在地：西条町寺家 10020 番地 43

規模：敷地面積約 2.88ha（平地部分）、地域連携施設延床面積約 2,800 m²

駐車台数：大型車両 81 台、小型車両 136 台（うち身障者、妊婦用優先駐車場 5 台）

整備機能：地域連携施設（直売所、レストラン、フードコート、加工室、多目的室、屋内子ども向け遊戯場、屋根付き広場、授乳室、シャワー施設等）、駐車場、緑地、国施設（トイレ、情報発信施設）



令和 4 年度 目的別事業群総括管理 (決算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	3 都市成長基盤の強化・充実
施策の将来の目標像	東広島市の中心地は、市の玄関口として市内外から人びとが集い、憩い、多様な活動が繰り広げられるエリアとなっています。また、各地域では良好な景観が形成され、市民の郷土への誇りや愛着が育まれています。さらに、企業が活発な研究開発と生産活動を展開できる産業用地が確保され、都市としての活力の源となる新たなビジネスが創出される基盤が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R6年度)
	新たに確保した産業用地の面積 (計画期間累計)	0 ha	10 ha

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① にぎわいと魅力ある都市空間の形成	主管部局・所属	都市部 都市計画課
関係部局・所属	総務部	政策推進監	産業部 ブランド推進課
	産業部	産業振興課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	交通結節点となる西条駅や、特徴的な景観を有する酒蔵地区、プールパル通り沿いに立地する多様な施設を活かし、魅力ある中心市街地の形成を図る。	現状	中心市街地の人通りが少なく、賑わいや活気がない。	
課題		仮説に基づく戦略		寄与度 戦略No.
散策したくなる・歩いて楽しめるコンテンツの不足		中心市街地の賑わい創出		中 1
交流・イベント・スポーツ・文化活動等、多様な用途に活用できる自由度の高い場所が少ない		中心市街地の公有地デザイン		中 2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 酒蔵地区の観光客数 (西条酒蔵通り観光案内所の来訪者数)	34,412 (H28)		40,300	41,500	42,200	42,200	人
			13,500	18,578		(R5)	
			33.5%	44.8%		44.0%	
(4)	()	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率				()	
(7)	()				()		

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
	R3年度	83,778		10,197		24,318千円
		64,878		10,197		
	R4年度	54,736		25,671		
		27,736		16,671		

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	3 都市成長基盤の強化・充実	① にぎわいと魅力ある都市空間の形成

事業の概要					
戦略	1 中心市街地の賑わい創出	予算	42,488 千円	決算	25,496 千円
事務事業	1-1 景観形成事業	予算	42,488 千円	決算	25,496 千円

内容

1-1_景観を活かしたまちづくりの推進

① 西条本通線の美装化・酒蔵地区の景観形成（10,000 千円）

酒蔵地区の街並みと調和した景観保全のため、西条本通線の道路美装化を進めた。

② 白市地区の景観形成（571 千円）

歴史的な街並みが残る白市地区の交流拠点である白市交流会館を管理運営するとともに、白市歌舞伎の普及啓発活動に支援を行った。

③ 街なか賑わい創出のための社会実験（14,925 千円）

中心市街地の賑わい創出に向け、西条中央公園やブルーバール歩道等の公共空間を活用して、フリーマーケットやイルミネーション等のイベントに併せて、キッチンカーや屋台、パークレット(イス、テーブルなど)を設置するなど、街なか賑わい創出のための社会実験(アルカモン)を実施した。

【成果・課題】

成果としては、多様な世代が集まり、歩道に設置したイスやテーブルは、休憩、食事、テレワークなどといった様々な用途に活用され、中心市街地の人通りも増え、人々の滞留時間も長くなったと感じている。引き続き、社会実験を重ねながら、官民が連携したまちづくりの推進や、歩道空間の活用推進に向けた取組みを進めていく。



■ 社会実験（アルカモン）での取組み

事業の概要				
戦略	2	中心市街地の公有地デザイン	予算 12,248 千円	決算 175 千円
事務事業	2-1	プロジェクト推進事業	予算 12,248 千円	決算 175 千円

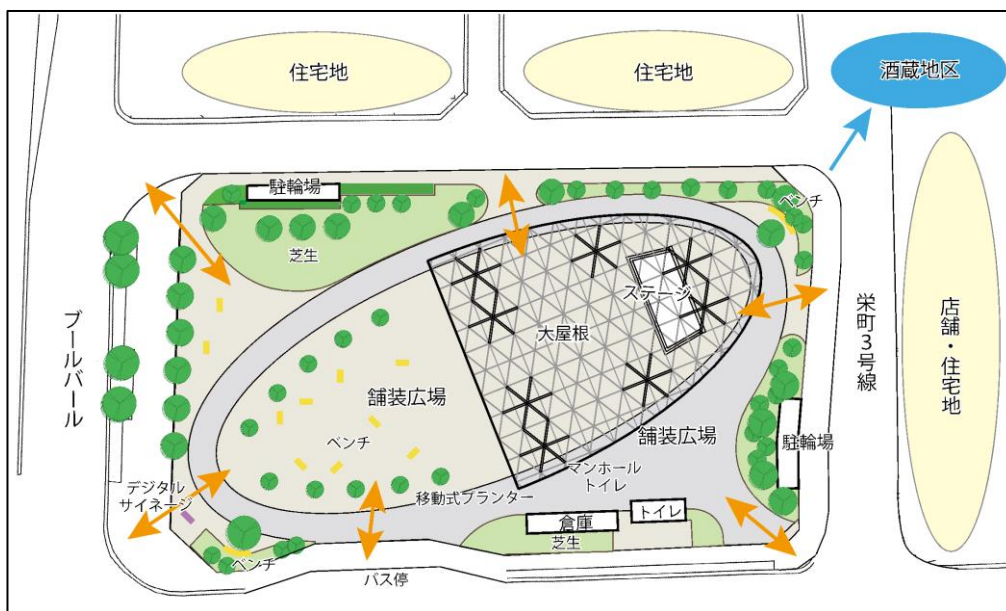
内容

2-1_プロジェクトの推進

①中央生涯学習センター跡地等活用基本計画の検討（175 千円）

中央生涯学習センター跡地及び周辺公有地の活用に向け、ゾーニング案、大屋根広場・新施設等の機能や規模、概算事業費及び事業スケジュール等について検討を行った。

事業規模が非常に大きくなることを見込まれ、市財政への影響等を整理するため、事業内容を精査する必要があることから、基本計画の策定を令和5年度に繰り越し、継続して検討することとした。



■大屋根広場（中央生涯学習センター跡地）整備イメージ

令和 4 年度 目的別事業群総括管理（決算）シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	3 都市成長基盤の強化・充実
施策の将来の目標像	東広島市の中心地は、市の玄関口として市内外から人びとが集い、憩い、多様な活動が繰り広げられるエリアとなっています。また、各地域では良好な景観が形成され、市民の郷土への誇りや愛着が育まれています。さらに、企業が活発な研究開発と生産活動を展開できる産業用地が確保され、都市としての活力の源となる新たなビジネスが創出される基盤が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値（R1年度）	目標値（R6年度）
	新たに確保した産業用地の面積（計画期間累計）	0 ha	10 ha

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 新たな産業基盤の整備	主管部局・所属	産業部	産業振興課
関係部局・所属				

3 目指す姿と戦略

目指す姿	研究開発と生産活動が展開できる産業用地の確保	現状	企業の用地確保ニーズがある	
課題	企業が立地できる新たな用地が不足している	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
		新たな産業基盤の整備	中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 着工予定の産業用地の面積(計画期間累計)	0 (R1)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	4	6	8	累計10 (R6)	ha
			31.5	31.5			
			787.5%	525.0%			
(4) 新たに確保した産業用地の面積(計画期間累計)	0 (R1)		4	6	8	累計10 (R6)	ha
			40.6	43.1			
			1015.0%	718.3%			
(7)	()					()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費(千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R3年度		118,500		38,965		14,364千円
		66,500		26,895		
R4年度		111,956		234,851		
		59,956		350		

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	3 都市成長基盤の強化・充実	② 新たな産業基盤の整備

事業の概要					
戦略	1 新たな産業基盤の整備	予算	111,956 千円	決算	234,851 千円
事務事業	1-1 産業用地環境整備事業	予算	111,956 千円	決算	234,851 千円
内容					

1-1_新たな産業基盤の整備

① 産業基盤の整備に向けた検討 (350 千円)

新たな産業用地の確保に係る検討を進めるため、産業用地整備プロジェクトチームを編成し、産業用地の開発可能性調査を実施した。

【成果・課題】

産業用地の確保検討にあたり関係部局と一体的に取り組むため、新たに産業用地整備プロジェクトチームを編成し、候補地の検討及び開発可能性調査を実施している。引き続き整備検討を進めるとともに、早期整備の実現に向けて取り組む必要がある。

② 半導体関連産業支援に係る取り組み(234,501 千円)

市内半導体産業の振興に取り組むため、広島県や広島大学、民間企業等と連携して半導体関連産業の技術革新や高度人材の育成を目的とした「せとうち半導体共創コンソーシアム」に参画した。また、その活動費として負担金を支出した。



【せとうち半導体コンソーシアムの目指す姿】

広島大学ナノデバイス研究所を中心に、国内外の人材や企業・研究機関等が集まり、世界最先端の技術開発を進めるとともに、俯瞰的な視点と高度な専門知識を持ち企業・研究機関で活躍する人材の育成を推進する。

設立日：令和5年3月9日

会 員：16 社（経済産業省中国経済産業局、広島県、東広島市、民間企業 13 社）

【成果・課題】

令和4年度はコンソーシアムの設立及び設立総会を実施した。次年度以降、広島大学ナノデバイス研究所を中心に、半導体関連の共同研究の推進や人材育成講座等の開催など、具体的な取組を実施する。

令和 4 年度 目的別事業群総括管理（決算）シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	4 交通ネットワークの強化
施策の将来の目標像	鉄道や路線バス、広島空港など広域移動も見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続されています。日常生活において公共交通の重要性・必要性が広く市民に再認識されています。		
施策の数値目標	指標	現状値（H30年度）	目標値（R6年度）
	国県道整備率	15%	39%

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 公共交通ネットワークの強化・充実	主管部局・所属	地域振興部 地域政策課
関係部局・所属	河内支所	地域振興課	安芸津支所 地域振興課
	都市部	都市整備課	

3 目指す姿と戦略

目指す姿	広域移動を見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続	現状	高い自動車分担率が続き、公共交通利用が低迷、交通事業収益が悪化		
課題		仮説に基づく戦略		寄与度	戦略No.
都市の拠点性・経済循環を支える交通機能の不足 乗りにくさ(運賃、路線本数)、交通事業者の収益性の悪化		公共交通機能の強靱化による利便性の向上		中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 1日当たりJR乗車人員	23,617 (H30)	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	25,464	25,508	25,551	25,600 (R6)	
(4)	()		19,629	21,420		()	
(7)	()		77.1%	84.0%		83.7%	

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)	R 年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
3	年度	925,199		620,873		
		245,688		234,743		
4	年度	1,011,253		1,078,997		33,390千円
		285,723		288,055		

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額	R4 当初予算額
				R3 決算額	R4 決算額
1-1	2・1・7 公共交通網形成事業	地域政策課	1.35	649,255	367,205
				374,290	531,349
1-2	2・1・7 公共交通網形成事業(河内支所)	河内支所地域振興課	0.30	11,820	14,196
				10,885	29,780
1-3	2・1・7 公共交通網形成事業(安芸津支所)	安芸津支所地域振興課	2.10	6,509	6,817
				4,238	6,444
1-4	8・5・2 交通結節点改善事業	都市整備課	1.55	257,615	623,035
				231,460	511,424
合計			5.30	925,199	1,011,253
				620,873	1,078,997

7 R4 事業費の分析 (差額 = 「R4 年度当初予算額」 - 「R4 年度決算額」) ※決算額には繰越を含む。

差額	-67,744千円	分析	令和3年度から繰越した、交通結節点整備事業(下見鏡山、黒瀬)の整備に伴う費用を執行したため。
----	-----------	----	--

8 R4 成果指標の分析 (成果指標の平均達成率)

平均達成率	84.0%	分析	令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛、テレワーク等の新しい生活様式の浸透を背景に、人の移動が低下したままであり、依然として厳しい状況が続いている。
-------	-------	----	--

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	交通結節点(駅、バス)の機能強化、持続可能なバス交通に向けた路線再編及び都市間交通とバス等の二次交通の効果的な接続、これらを下支えするモビリティマネジメントの取組を行い、市民及び来訪者の社会経済活動に寄与した。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	西高屋駅周辺地区の交通環境機能強化及び交通結節点機能の充実、バス交通結節点の整備に伴う路線再編及び乗継環境の向上により、利用者の増加・維持に努めることでコスト削減の可能性はある。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症拡大により、令和5年3月における中国運輸局管内の公共交通輸送人員については、令和元年同月と比較し、JR西日本は88%、新幹線は88%、一般乗合バスは84%、旅客船は90%と1~2割程度減少している。

10 総合評価

総合評価	B	<p><総評></p> <p>交通結節点整備事業については、下見鏡山地区(広大中央口)の整備が完了し、黒瀬地区においては、用地を確保したが、計画に一部遅れが生じている。また、新型コロナウイルス感染症の影響による利用の落ち込みが回復せず、交通事業者の収益改善が依然として難しい中、公共交通維持のため、国・県の支援制度を補完した効果的な支援を行うことができた。</p>
------	---	--

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針
都市の拠点性や社会経済活動を支える交通ネットワークの利用者が減少したままであり、交通事業者の収益性も悪化している。	交通結節点の改善・整備による利便性向上、広域交通拠点(空港、新幹線)への二次交通の充実、幹線・支線によるバス路線の効果的な再編推進により、将来にわたり持続可能な公共交通の実現に向けて取り組んでいく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	4 交通ネットワークの強化	① 公共交通ネットワークの強化・充実

事業の概要					
戦略	1 公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算	1,011,253 千円	決算	1,078,997 千円
事務事業	1-1 公共交通網形成事業	予算	367,205 千円	決算	531,349 千円

内容

1-1_公共交通網の形成（531,349 千円）【2 款 1 項 7 目】

① 交通結節機能の強化と空港対策（280,544 千円）

ア バス交通結節点の整備

利便性と路線再編による運行効率の向上を図るため、バス交通結節点の下見・鏡山地区の整備を完了させ、黒瀬地区の用地を取得した。

(ア)下見・鏡山地区交通結節点（うち 203,524 千円）

建築工事、施設管理費



(イ)黒瀬地区交通結節点（うち 73,931 千円）

用地取得

イ 空港対策（広島空港整備事業負担金）（うち 3,089 千円）

県、隣接自治体と連携を図り、広島空港の滑走路整備等の空港機能の維持及び改善に係る整備費を負担した。

ウ 海路対策（うち 0 千円）

安芸津港～大西港（大崎上島町）運航に係る支援を行う予定であったが、黒字のため負担が生じなかった。

② 鉄道輸送の強化（13,988 千円）

ア 寺家駅の維持管理（うち 13,880 千円）

駅の待合環境と快適性の向上を図るため、適正に管理を行った。

事業の概要

③ バス交通の維持・強化 (227,617 千円)

ア 市内路線バス運行経費に対する支援 (うち 219,015 千円)

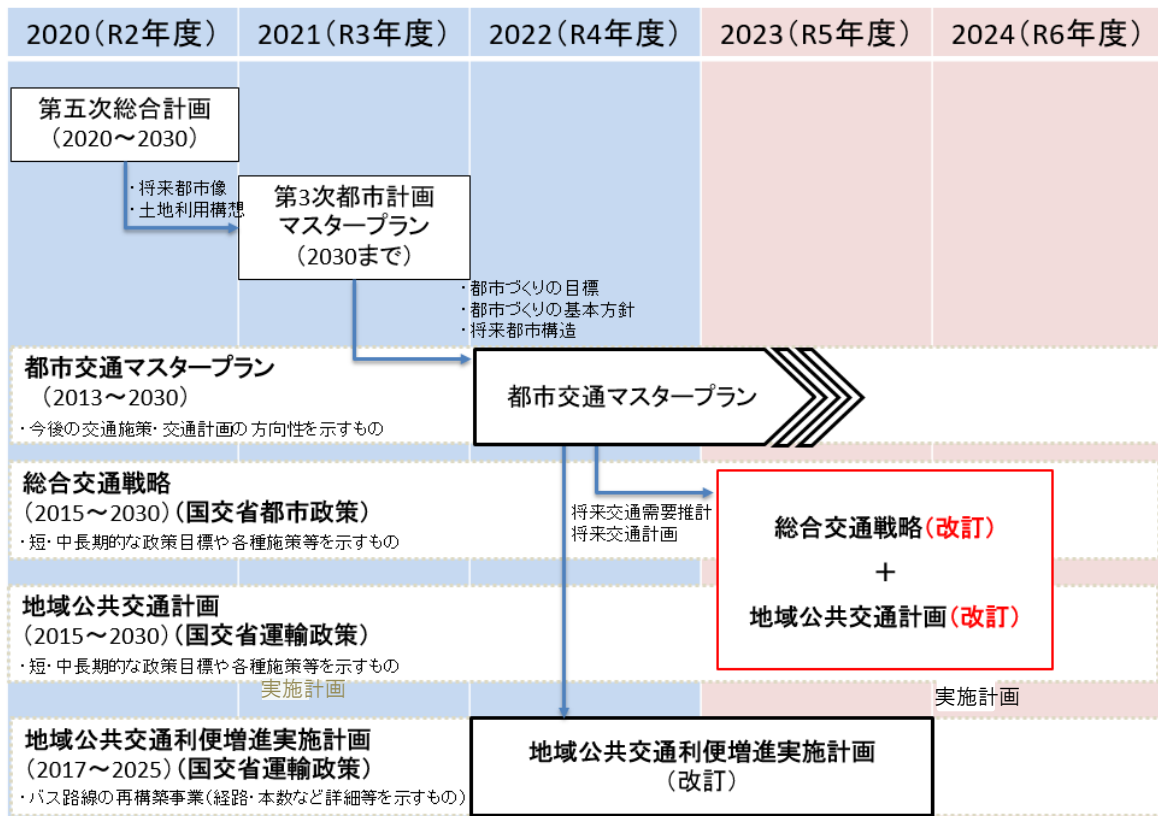
本市の移動の骨格である幹線交通を支えるため、路線バス運行に係る支援を行った。新型コロナウイルス感染症の影響による、人の移動の減少により、運賃収入が大幅に減少したバス事業者に対して、国・県と合わせて支援を行うことにより、バス路線網を維持できた。

【拡】イ 東広島市地域公共交通利便増進実施計画の改訂 (うち、8,602 千円)

持続可能なバス交通網の構築に向けて、東広島市地域公共交通利便増進実施計画の改訂を進めた。

【拡】④ 東広島市都市交通マスタープランの改訂 (9,199 千円)

第五次東広島市総合計画及び第3次東広島市都市計画マスタープランの策定、並びに公共交通を取り巻く環境変化に即して、東広島市都市交通マスタープランの改訂 (マイナーチェンジ) を進めた。



事業の概要			
戦略	1	公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,011,253 千円 決算 1,078,997 千円
事務事業	1-2	公共交通網形成事業(河内支所)	予算 14,196 千円 決算 29,780 千円
内容			
<p>1-2_公共交通網の形成(河内支所)</p> <p>① 広島空港周辺対策 (29,780 千円)</p> <p>ア 広島空港周辺整備</p> <p>空港周辺環境の配慮を講じるため、県と連携を図り、周辺地域の住宅への空調対策、道路等安全対策・周辺環境保全、公共施設を活用した地域振興策を進めた。</p>			

事業の概要						
戦略	1	公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算	1,011,253 千円	決算	1,078,997 千円
事務事業	1-3	公共交通網形成事業（安芸津支所）	予算	6,817 千円	決算	6,444 千円
内容						
<p>1-3_公共交通網の形成（安芸津支所）</p> <p>① 安芸津駅の維持管理（6,444 千円）</p> <p>駅の待合環境と快適性の向上を図るため、適正な管理を行った。</p>						

事業の概要			
戦略	1 公共交通機能の強靱化による利便性の向上	予算 1,011,253 千円	決算 1,078,997 千円
事務事業	1-4 交通結節点改善事業	予算 623,035 千円	決算 511,424 千円

内容

1-4_駅周辺の交通結節点の改善

住民や近隣教育機関の学生・生徒が多く利用する西高屋駅舎の橋上化に合わせ、公衆トイレや情報ラウンジ等の整備を行い西高屋駅周辺の賑わいや活力の創造を図った。

① 西高屋駅の機能強化のための南北自由通路や駅前広場の整備 (511,424千円)

南北自由通路や駅前広場の整備等により、駅へのアクセス性向上及びバリアフリー化を図るとともに、交通結節点機能の改善を行った。

【成果と課題】

設計の見直しが生じたため、JR委託等が年度内に完了することができなかった。

令和6年度中の駅開業に向けて、事業を進めていく必要がある。

【活動指標】

用地補償、南北自由通路及び駅舎整備（JR工事委託）、北口駅前広場整備
進捗率 26%（事業費ベース）



(仮駅舎の供用)

	R4	R5	R6
・西高屋駅南北自由通路 延長110m、幅員4m	用地補償	用地補償	用地補償
・西高屋北口駅前広場	工事	工事	工事
・西高屋駅橋上化及び公衆トイレ・情報ラウンジ等	JR委託	JR委託	JR委託

令和 4 年度 目的別事業群総括管理（ 決算 ）シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	4 交通ネットワークの強化
施策の将来の目標像	鉄道や路線バス、広島空港など広域移動も見据えた交通結節機能・広域的な道路ネットワークが強化され、主要拠点間が最適な移動手段で接続されています。日常生活において公共交通の重要性・必要性が広く市民に再認識されています。		
施策の数値目標	指標	現状値（H30年度）	目標値（R6年度）
	国県道整備率	15%	39%

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	② 高規格幹線道路及び幹線道路交通網の整備	主管部局・所属	都市部	都市計画課
関係部局・所属				

3 目指す姿と戦略

目指す姿	東広島市の慢性的な交通渋滞の解消を図り、産業活動や広域連携の強化につながる幹線道路交通網を形成する。	現状	市中心部の拠点性の高まりにより、交通量が増加し、慢性的渋滞が発生しており、広域利便性を生かした産業活動や広域連携に支障が出ている。	
課題		仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
高規格幹線道路網及び幹線道路網の整備が遅れている。	国・県幹線道路整備の取組み		中	1

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)	目標値及び実績値	終期目標値 (年度) 達成率			単位
			R3	R4	R5	
(7) 国県道路整備率	15 (H30)		15	15	15	39 (R6) %
			15	39		100.0% 260.0% 100.0%
(4)	()	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率				()
(5)	()					()

5 コスト情報

目的別 事業群 事業費 (千円)	R 3 年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
		58,769		69,123		10,899千円
		30,169		14,323		
	R 4 年度	55,220		67,360		
		26,920		14,360		

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	4 交通ネットワークの強化	② 高規格幹線道路及び幹線道路交通網の整備

事業の概要					
戦略	1 国・県幹線道路の取組み	予算	55,220 千円	決算	67,360 千円
事務事業	1-1 国・県幹線道路整備事業	予算	55,220 千円	決算	67,360 千円

内容

1-1_国・県幹線道路の早期整備を推進

慢性的な交通渋滞を解消し、産業活動や広域連携の強化を図るため、広域的な道路ネットワークとなる幹線道路の整備促進を実施した。

① 幹線道路整備の推進（2,543 千円）

幹線道路の整備を推進するため、道路の期成同盟会の活動費を負担した。

② 広島県が整備する幹線道路事業の促進（64,817 千円）

広島県が市内で整備する国県道に係る整備費の一部を、広島県条例の規定により負担した。

【成果と課題】

国が実施する直轄事業について、これまでの期成同盟会や主要事業提案などの要望活動に加えて、市単独で個別要望を行い、西条バイパス4車線化事業の新規事業化につながった。広島県が実施する幹線道路事業については、整備費の一部を負担するとともに地元調整を積極的に行い、一定の事業の進捗はあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一部の事業について遅れが生じている。遅れが生じた事業については、関係省庁等へ予算の確保等を要望するとともに、広島県と連携し地元調整を積極的に行い、整備促進を図る必要がある。

○主な事業箇所

【都市計画道路 上寺家下見線(蓮花寺橋付近)】



令和 4 年度 目的別事業群総括管理 (決算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	5 環境に配慮した社会システムの構築
施策の将来の目標像	地球規模の環境問題等に対応できる次世代環境都市の構築が進展し、環境と調和した潤いのある地域が形成されています。また、構築の過程で生み出されたシステムや成果が、市民の暮らしづくりに効果的に活用されています。		
施策の数値目標	指標	現状値 (H25年度)	目標値 (R6年度)
	市内の温室効果ガス総排出量	2,257.5千t-CO2	1,877.7千t-CO2

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 環境に配慮した社会システムの構築	主管部局・所属	生活環境部 環境先進都市推進課
関係部局・所属	財務部 管財課	産業部	農林水産課
	生活環境部 廃棄物対策課	消防局	消防総務課
	こども未来部 保育課		

3 目指す姿と戦略

目指す姿	次世代型の環境都市の構築	現状	地球温暖化対策等に対する取組みが求められている。	
	課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
	気候変動の影響緩和と適応	脱炭素化の推進とレジリエンス強化	中	1
	将来像の共有と取組みをサポートするシステムづくり	S-TOWNプロジェクトの推進	中	2

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)		目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R3	R4	R5		
(7) 温室効果ガス排出量	2,257.5 (H25) マイナス指標設定	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	1,981.3	1,946.8	1,912.3	1,877.7 (R6)	千t-CO2
(4) COOL CHOICE賛同者数	1,683 (R1)		3,900	4,500	5,100	5,700 (R6)	人
(5) 再生可能エネルギー導入容量	22.1 (R1)		101.5%	106.0%		83.7%	
			23.4	24.0	24.6	25.3 (R6)	万kW
			25.4	26.5			
			108.5%	110.6%		104.9%	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)		当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R3年度		44,231		23,085		29,106千円
		38,833		22,962		
R4年度		68,411		31,740		
		50,496		31,605		

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額	R4 当初予算額
				R3 決算額	R4 決算額
1-1	2・1・6 庁舎等脱炭素推進事業	管財課	0.20	0	4,835
				0	6,472
1-2	4・1・4 脱炭素化等支援事業	環境先進都市推進課	2.72	32,409	56,845
				18,327	20,321
2-1	4・1・4 S-TOWNプロジェクト推進事業	環境先進都市推進課	1.70	11,822	6,731
				4,758	4,947
合計			4.62	44,231 23,085	68,411 31,740

7 R4 事業費の分析 (差額 = 「R4 年度当初予算額」 - 「R4 年度決算額」) ※決算額には繰越を含む。

差額	36,671千円	分析	事業調整等に不測の日数を要するなどしたため、東広島市温暖化対策実行計画策定業務及び脱炭素先行地域計画策定業務を令和5年度に繰り越した。
----	----------	----	---

8 R4 成果指標の分析 (成果指標の平均達成率)

平均達成率	108.3%	分析	COOLCHOICE賛同者数、再生可能エネルギー導入容量とも目標を達成し順調に推移している。市民、事業者の脱炭素に関する意識が着々と醸成している。
-------	--------	----	---

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	国際エネルギー市場における需給のバランスは大幅に崩れ、世界的にエネルギー価格が高騰する中、スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援事業に対する市内事業者の関心は高かった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	市域の埋もれた環境価値を発掘するために取組んだJ-クレジット事業では、当初想定していなかったJ-クレジット協会の支援(補助)を受け、最小限の支出で制度認定出来た。
外的要因	外的な要因による影響があったのか。	物価高騰の影響による事業者の投資控え等の影響により、スマートオフィス・スマートファクトリー支援化事業のうち、国等の補助金交付申請サポート業務の実績が上がらなかった。

10 総合評価

総合評価	A	<総評> 市民の環境に対する意識が高まっているこの契機を逃すことなく、市民への環境啓発を実施することが出来た。半導体不足などの外的要因により、期待した効果を得ることの出来ない事業もあったが、引き続き、温室効果ガス排出量削減に向け、市民、事業者、市が一丸となって取り組めるように事業を推進していく。
------	---	---

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針
スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援の活用啓発や、EV充電器設置補助について、事業者ニーズ等とのミスマッチの状況があった。 市域の温室効果ガスを、基準年比△46%以上とするために、さらなる取組が必要である。	R5.3に環境に関する事業で連携協定を締結した事業者とともに、市内情勢を的確に把握し、事業(予算)に反映出来るよう検討する。 重点対策加速化事業に取り組むことにより、市域の脱炭素化を加速化する。

概要シート

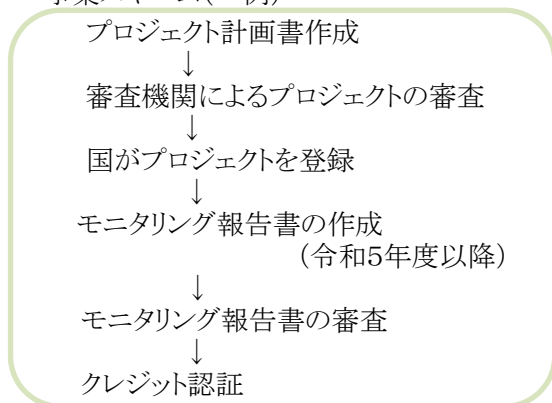
まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活カづくり	5 環境に配慮した社会システムの構築	① 環境に配慮した社会システムの構築

事業の概要					
戦略	1 脱炭素化の推進とレジリエンス強化	予算 61,680 千円	決算 26,793 千円		
事務事業	1-1 庁舎等脱炭素推進事業	予算 4,835 千円	決算 6,472 千円		
内容					
1-1_庁舎等の脱炭素化の推進とレジリエンス強化					
① 庁舎等の脱炭素化の推進 (6,472 千円)					
市域の温室効果ガス排出量の削減に向け、市として先行的な取組みを実施した。					
【新】ア 福富支所を中心とした脱炭素先行地域の形成					
・省エネルギー化を目的として、E S C O事業により各種設備を導入した。また、停電時でも支所機能を 72 時間維持できるよう非常用発電機を整備した。					
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">E S C O事業による導入設備</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">空調設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D化、非常用発電機</td> </tr> </table>				E S C O事業による導入設備	空調設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D化、非常用発電機
E S C O事業による導入設備					
空調設備、太陽光発電設備、蓄電池、照明の L E D化、非常用発電機					
<p>< E S C O事業とは ></p> <p>E S C Oはエネルギーサービスカンパニーの略称で、設備の高効率化を図り、光熱費の削減を進めていく事業のこと。</p>					
イ その他の脱炭素化への取組み					
(ア) 照明の L E D化					
・事業効果が見込める公共施設 5 施設（本庁舎、高屋出張所、板城西保育所、河内西保育所、消防局庁舎）の照明の L E D化を実施した。					
(イ) 公用車のハイブリッド車、燃料電池自動車への更新・切替					
・公用車 16 台をハイブリッド車に切り替え、燃料電池自動車を 1 台導入した。					

事業の概要			
戦略	1 脱炭素化の推進と地域レジリエンス強化	予算 61,680 千円	決算 26,793 千円
事務事業	1-2 脱炭素化等支援事業	予算 56,845 千円	決算 20,321 千円
内容			
1-2_地域における脱炭素化の推進とレジリエンス強化			
<p>【拡】① 地球温暖化対策実行計画等の改訂（0 千円） (R5 年度へ繰越 10,175 千円) 脱炭素化の事業を推進するため、再エネ促進区域等の指定、地域脱炭素化促進事業の認定の手続等を定めるよう実行計画の見直しを行っている。</p>			
<p>【新】② 太陽光発電設備等導入ポテンシャル調査（2,145 千円） 歳入として見込んでいた国の交付金不採択を受け、事業規模を縮小し、5 施設を対象に、太陽光発電設備等の導入容量や、導入コスト等の把握を行う等、再エネ設備等の導入ポテンシャル調査業務を委託した。</p>			
<p>【成果・課題】</p> <p>調査対象施設は、電力需要量、施設規模、敷地規模から以下の 5 施設とした。</p> <p>「道の駅湖畔の里福富」「しゃくなげ館」「福富小・中学校」「北部学校給食センター」「福富多目的グラウンド」</p> <p>発電した電力を自施設で消費する「自家消費型」のみで事業収支シュミレーションを行ったところ、全ての施設で事業継続性があることが判明した。</p>			
<p>【新】③ 環境価値（J-クレジット）の創出（333 千円） 市内で生み出される創エネ等の環境価値をクレジット化し、市内企業等（SDGs 未来都市推進パートナー等）に売却することで市内の CO₂ 排出量の削減（オフセット）を促すことを目的に、プロジェクトの登録を行った。</p> <p>ア 市民が蓄電池等を導入したことによる CO₂ 削減量をクレジット化 イ 森林整備による CO₂ 吸収量をクレジット化</p>			
<p>【成果・課題】</p> <p>ア 「東広島市太陽光 CN プロジェクト」として、J-クレジット制度のプロジェクト計画書の認証を受けた。</p> <p>計画は、2050 年までに合計 38,192t-CO₂ 分のクレジット創出を計画している。</p> <p>クレジット発行には一定の経費が掛かることから、収支のバランスがとれる段階での発行を目指す。</p> <p>イ 森林整備に係るクレジット計画書を作成済みで、R5 年度審査を受け、年度内の認証を目指している。</p>			

事業の概要

事業スキーム(一例)



④ スマートオフィス・スマートファクトリー化の推進 (2,913 千円)

産業部門、業務その他部門の中小企業等を中心に CO₂ 排出量の削減を推進するため、簡易 CO₂ ポテンシャル診断、省エネアドバイス、省エネ技術提供、設備改修等に係る補助金申請等を行う業務等を委託した。

【成果・課題】

電気料金の高騰により、ポテンシャル調査のニーズは高まった結果、製造業の事業者を中心に 21 件の依頼があった。

しかし、診断結果を受けての国の交付金等を活用した事業実施に至った事例はなかった。事業者からは、物価高等により投資のタイミングを見定めたいとの意見があった。

⑤ EV 充電設備の導入支援 (0 千円)

EV、PHEV等の普及促進のため、市内商業施設等へのEV充電設備（普通充電器・急速充電器）の設置支援を行った。

【活動指標】

支援内容	支援件数
急速充電器設置	0 件
普通充電器設置	0 件

【成果・課題】

世界的な半導体不足によるEV充電器の供給遅れが慢性的に続いた。このことから、補助金の活用を検討していた事業者は、補助金より納期を優先し、補助対象外の設備を導入することとなった。

この他に充電設備設置に係る相談がないこと、スマートハウス化支援事業における家庭用充電器（V2H）の需要の高まりを受け、令和5年度からは、事業用から家庭用に支援対象を移行する。

事業の概要

⑥ 地域のレジリエンス強化（スマートハウス化支援）（14,921千円）

市民を対象に、省エネ・創エネの推進や災害時のレジリエンス強化を目的に蓄電池等の導入支援を行った。

【活動指標】

支援内容	支援件数
定置用リチウムイオン蓄電システム	131件
家庭用燃料電池システム	3件
電気自動車充電設備	6件

【成果・課題】



支援件数は延べ140件（申請者139者）であった。
特に電気自動車充電設備の支援実績がR3年度1件から6件へと急増した。
一方で、8月までに交付決定していたにも関わらず、世界的な半導体の供給不足により、納品が間に合わず等の理由により、6件事業中止となった。
納品遅れによる事業中止分については次年度に改めて申請いただくよう調整した。

⑦ 広島大学における脱炭素化の推進

市域内の先行事例として、広島大学の2030年カーボンニュートラルの実現に向け、Town & Gown Officeと連携し、取組みを推進した。

【成果・課題】

環境省の「脱炭素先行地域づくり事業」採択に向け、Town & Gown Officeと連携し計画書を作成し、令和4年度第2回募集に応募した。
結果は不採択であったが、次回応募に向け、引き続き連携して取組む。

事業の概要						
戦略	2	S-TOWN プロジェクトの推進	予算	6,731 千円	決算	4,947 千円
事務事業	2-1	S-TOWN プロジェクト推進事業	予算	6,731 千円	決算	4,947 千円
内容						
2-1_S-TOWNプロジェクトの推進						
① S-TOWNプロジェクトチーム会議等の開催 (255 千円)						
産学官民が連携するためのプロジェクトチーム会議を開催し、実現可能な事業の企画・検討を3回行った。						
主な検討項目						
○環境配慮型の災害に強いコミュニティの構築						
・再生可能エネルギーの導入推進や災害時のレジリエンス強化を目指し、地域マイクログリッド等の構築について、民間研究機関等とともに実証に向けた協議を進めた。 (協議回数：9回/年)						
○環境教育プログラム (Web版環境学習センター) の構築						
・将来世代の環境学習を充実させた環境学習センター (Web版) の設置に向け、学習コンテンツについて、教育関係者及び企業等と協議を進めた。 (協議回数：6回/年)						
○市有施設での再生可能エネルギー発電の実施等						
・再生可能エネルギーの導入促進を図るため、市有地等への発電設備の設置の検討のほか、遊休地等の有効活用、既設太陽光発電電力の面的融通等を推進できるよう、系統線を利用するPPAモデル等の活用を検討した。 (協議回数：4回/年)						
○食品残渣リサイクルループの構築等						
・サーキュラーエコノミー (循環型経済) の構築に取り組む一環として、市内幼稚園・保育所や社会福祉施設にコンポストを設置し、地域で家庭等からでる生ごみをコンポストでたい肥化し、菜園や花壇等で活用し、廃棄物の資源循環と同時に、その体験を通して環境意識の醸成等を図った。 (ミミズコンポスト講習会数：28回/年)						
○市民主体の里山活用						
・市民が森林に関心を持って行う、主体的な森林整備や環境教育、ヘルスケア、獣害対策等の副次的効果を期待した新たな発想に基づく、森林資源の有効活用、空間利用を推進した。 (里山資源マイスター養成講座延べ参加者：66人/年)						
② 環境保全意識の醸成 (2,445 千円)						
・SDGs×「COOL CHOICE」の啓発						
市内事業者を対象としたセミナーを開催						
						

事業の概要

- ・ひがしひろしま環境フェアの活動支援
来場者数 3,500人、(中央公園、にぎわい広場、美術館前)
広島中央環境衛生組合とのコラボ開催
協賛企業者数 38 企業・団体
カーボンオフセットの実施 23t-CO2 削減
COOL CHOICE 賛同者 814 人

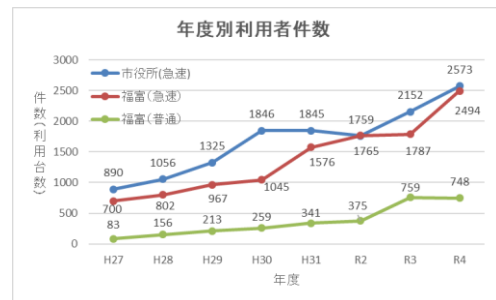


ひがしひろしま環境フェア 2022

③ 次世代自動車の普及による脱炭素化の推進 (1,362 千円)

- ・電気自動車(公用車)・市有施設のEV充電設備の管理

次世代自動車である電気自動車等の普及を目的に設置したEV用充電設備の稼働率は年々上昇しており、市内における次世代自動車の利便性向上に寄与している。



令和 4 年度 目的別事業群総括管理 (決算) シート

1 第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	4 活力づくり	施策	6 未来を感じるプロジェクト挑戦都市
施策の将来の目標像	AIやビッグデータなど、最先端技術を活用し、未来の暮らしを先行実現する「まるごと未来都市」を目指す取組みが積極的に展開されています。		
施策の数値目標	指標	現状値	目標値
	--	--	--

2 目的別事業群の概要

目的別事業群名	① 「まるごと未来都市」の形成に向けた取組みの展開	主管部局・所属	総務部 DX推進監
関係部局・所属	総務部 政策推進監	総務部	広報戦略監

3 目指す姿と戦略

目指す姿	デジタル化を活用した社会	現状	デジタル化が進んでいない分野が多い	
	課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
	市民の暮らし・仕事、地域社会、行政におけるDXが推進されていない	DXの推進による市民の利便性向上	高	1
	まるごと未来都市に向けた機運が醸成されていない	DXの推進に向けた体制整備	中	2
		未来都市形成に向けた体制整備	低	3
	SDGsの考え方が広まっていない	SDGsの推進	低	4

4 成果指標

成果指標	初期値 (年度)	目標値及び実績値			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R3	R4	R5		
(7) 市民ポータルサイトの登録者数	(0 R2)	20,000	33,000	45,000	60,000	件
		19,985	30,933		(R6)	
		99.9%	93.7%		51.6%	
(4) 行政手続のオンライン化	(59 R2)	300	400	500	500	件
		221	292		(R5)	
		73.7%	73.0%		58.4%	
(5)	()				()	

5 コスト情報

目的別事業群事業費 (千円)	R年度	当初予算額		決算額		人件費
		一般財源		一般財源		
R3年度		123,230		98,937		51,030千円
		78,797		59,663		
R4年度		186,505		129,165		
		182,001		53,676		

6 戦略を構成する事務事業

(単位：千円)

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額	R4 当初予算額
				R3 決算額	R4 決算額
1-1	2・1・8 DX推進事業	DX推進監	5.00	79,648	144,034
				80,322	104,117
1-2	2・1・2 DXを活用した広報事業	広報戦略監	0.20	2,178	1,452
				1,452	1,452
2-1	2・1・8 DX体制整備事業	DX推進監	0.40	25,037	25,703
				9,980	10,216
3-1	2・1・7 未来都市形成事業	政策推進監	1.20	6,309	5,243
				1,101	5,195
4-1	2・1・7 SDGs促進事業	政策推進監	1.30	10,058	10,073
				6,082	8,185
合計			8.10	123,230	186,505
				98,937	129,165

7 R4事業費の分析（差額＝「R4年度当初予算額」－「R4年度決算額」） ※決算額には繰越を含む。

差額	分析
57,340千円	外部人材を活用し、専門的な知見からの意見、助言を得ながら、庁内のDX推進に取り組んだが、当初想定していた外部人材の稼働とは至らなかった。

8 R4成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	分析
83.4%	市民ポータルサイトの登録者数は、着実に増加しているが、目標達成には至らなかったまた、手続きのオンライン数は、決済機能の追加等より利便性の高いオンライン化に注力したため、目標を達成できなかった。

9 取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的・対象・手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	市民ポータルサイトにおける子育てメニューを開始し、就学前の子どもを持つ保護者が一定数登録しており、ニーズを踏まえた取組みとなっている。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的・効率的な手段であったのか。	市民ポータルサイトについては、複数の業者を活用した開発や、市民ポータルサイトを軸とした他サービスとの連携により、新サービスの運用を開始することができた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	コロナ禍においても、オンラインによるシステム業者との協議を行い、外的な要因による影響は大きくなかった。

10 総合評価

総合評価	<総評>
B	成果指標の目標は達成できなかったが、市民ポータルサイトの機能強化や、サポートビラの開始により、市民や事業者とのデジタルでのタッチポイントを増やすことができた。SDGsに関しては各種事業を実施し、おおむね目標を達成することができた。

11 今後の課題及び取組方針

課題	課題を踏まえた今後の取組方針
市民ポータルサイトについては、子育てメニューのサービス開始により、子育て世代については着実に登録が進んでいる一方で、高齢者や学生などの若年層の登録が進んでいない。 SDGsの促進については、各団体のレベルに応じた支援が必要である。	住民自治協議会と連携した電子回覧板機能の開発や広島大学が開発する学生向けのTGOアプリと市民ポータルサイトの機能連携を行うことで、登録促進を図る。 SDGsの促進については、各団体のレベルに応じた伴走支援を実施し、SDGsの取組みを促進させる。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
4 活力づくり	6 未来を感じるプロジェクト挑戦都市	「まるごと未来都市」の ① 形成に向けた取組みの展開

事業の概要			
戦略	1 DXの推進による市民の利便性向上	予算 145,486千円	決算 105,569千円
事務事業	1-1 DX推進事業	予算 144,034千円	決算 104,117千円

内容

1-1_D Xの推進

① 共通基盤の整備 (73,156千円)

ア 市民ポータルサイトの運用 (うち 72,214千円)

市民と行政のインターネット上の接点となる市民ポータルサイトを運用するとともに新たなサービスを追加した。

【令和4年度に追加したサービス】

- ・ 事業者ポータルサイト「サポートビラ」の運用開始
- ・ 子育てメニューの開始
- ・ 子育て支援施設入退管理機能の開始
- ・ 地域別防災情報の配信開始
- ・ 市政情報のセグメント配信の開始

市民ポータルサイト登録者数：33,679人 (7月末時点)

サポートビラ登録事業者数：831社 (7月末時点)



■ サポートビラのトップページ



■ 市民ポータルサイトの子育てメニュー

【新】イ DX関連イベント (うち 942千円)

生涯学習フェスティバルにおいてメタバース空間やプログラミングの体験ブース等を出展することで、来場者にデジタル技術に「触れる機会」を創出した。

事業の概要

② 地域と暮らしのDXの推進 (16,264千円)

ア 提案型課題解決事業(トルク)の実施(うち13,014千円)

地域の企業・団体から地域課題を募集し外部の複業人材とともに課題解決に取り組んだ。

【採択課題】

- ・地域分散型ホテルをモデルにした地域振興計画
- ・継続して地域課題に取り組むためのまちづくり組織の設立
- ・テレワークを活用した企業の生産性向上モデル
- ・外国人材への日本語教育による介護業界就労支援(令和3年度から繰越)

【新】イ DX共同実証事業の実施(うち0千円)

デジタル技術の社会実装を目的に産官学共同で実証実験を実施した。

(7) 避難所スマート鍵ボックス共同実証実験(0千円)

危機管理課において実施したため執行せず

(1) 個別最適化された情報付与による行動変容の共同実証実験(0千円)

年度内着手・完了が見込めないことから2月補正で減額済

ウ 教育評価システム実証実験(うち3,250千円)

市職員及び中学校2校において、ブロックチェーンやAIを活用した非認知能力測定の実証実験を実施した。

③ 行政DXの推進(13,133千円)

オンライン申請の拡充による市民の手続の利便性向上や、RPA・AIを活用した行政の効率化を図った。

ア 電子申請(うち461千円)

県内市町と共同利用する電子申請システムを活用して行政事務の電子申請化を促進した。R4に電子化した申請数:71件

イ RPA(Robotic Process Automation)(うち5,940千円)

職員が行うパソコン操作をRPAで自動実行させることで、事務の効率化を図った。

ウ AI-OCR(うち2,222千円)

AI(人工知能)技術を取り入れたOCRを活用し、紙文書をデジタルデータ化することで、システム入力等に要する事務の効率化を図った。

④ データ利活用による政策形成(1,564千円)

ア 情報通信利用状況調査(うち1,236千円)

市民のスマートフォン等の情報通信利用状況のアンケート調査を行った。

事業の概要			
戦略	1 DXの推進による市民の利便性向上	予算 145,486 千円	決算 105,569 千円
事務事業	1-2 DXを活用した広報事業	予算 1,452 千円	決算 1,452 千円
内容			
<p>1-2_D X を活用した広報（1,452 千円）</p> <p>① 最新技術を活用した広報（1,452 千円）</p> <p>ア 積極的な市民への情報発信</p> <p>AI 技術を用い、市内で実施されているイベントや講座等の情報を収集・集約し、一元的に提供するサイトを運営した。</p> <p>1,790 件掲載（令和4年4月～令和5年3月末の延べ数）</p>			

事業の概要				
戦略	2	D Xの推進に向けた体制整備	予算 25,703 千円	決算 10,216 千円
事務事業	2-1	D X体制整備事業	予算 25,703 千円	決算 10,216 千円
内容				
2-1_D Xの推進に向けた体制整備				
① D Xの体制整備に向けた専門人材の活用（10,216 千円）				
ア デジタル社会推進官の配置				
D Xに関する助言、関係者との協議等を統括するD X推進プロデューサーをデジタル社会推進官に改め、勤務日数を増加した。				
【成果・課題】				
前年度までの週 3 回程度勤務を週 4 回勤務とし、主に、提案募集課題解決事業、D X事業推進のための庁内ワーキングやD X関連業者との協議時における助言等の業務を担った。				
イ 外部人材を活用したD X推進チームの配置				
業務の現状把握、見直し等を担当する外部人材を登用し、担当課の事務のD Xを推進した。				
・DX デザイナー：5 名				
・データ分析アドバイザー：1 名				
【成果・課題】				
D X推進監職員と各担当課の職員とのワーキングチームに参加し、専門的な知見からの意見、助言を得た。				
【主な活動事業】				
市民ポータル：市民ポータルサイトの開発方針、機能実装の協議				
子育て分野：子育てメニュー開発の協議				
防災分野：効果的な防災情報発信方法の検討				
地域分野：提案募集課題解決事業				
介護予防分野：医療、介護等のデータを活用した通いの場の効果検証				
産業分野：事業者ポータルサイトの開発				

事業の概要						
戦略	3	未来都市形成に向けた体制整備	予算	5,243 千円	決算	5,195 千円
事務事業	3-1	未来都市形成事業	予算	5,243 千円	決算	5,195 千円

内容

3-1_未来都市形成に向けた体制整備

【新】① 「生活価値創造のまち」の実現に向けた共創の仕組み構築 (5,195 千円)

東広島市の暮らし方を豊かに変えていくため、令和3年12月に締結した連携協定に基づき、マツダ・博報堂と生活者発想で創り上げる住民参加型の研究・事業企画プラットフォーム（共創の仕組み）の構築を進めた。

ア 共創の仕組みづくりと構想の策定

令和4年4月に市・マツダ・博報堂による「生活デザイン・工学研究所」を設置した。福富地域において、循環型経済の確立による地域活性化を図るため、地域と連携しながら構想を取りまとめた。

イ カーボンニュートラルを目指した取組み

旧竹仁小学校を拠点として、福富地域の資源である自然環境を活用し、里山を活かした再生可能エネルギー等の地産地消を図り、地域の中で資源を循環させる仕組みの検討に着手した。また、本研究所の活動等に使用するための電気自動車を福富支所に配備した。



■連携協定締結式



■地域住民とのワークショップ

事業の概要						
戦略	4	SDGsの推進	予算	10,073千円	決算	8,185千円
事務事業	4-1	SDGs促進事業	予算	10,073千円	決算	8,185千円

内容

4-1_SDGsの推進

① 市民の意識向上・行動変容の推進 (5,507千円)

市民へのSDGsの理念の浸透により、SDGsを自分ごと化し行動変容につなげるため、SDGs特設サイトの運用やコンテンツの充実を図ること等を通じて、市民・企業・団体・行政といった活動主体の取組みを見える化し、分かりやすく啓発を促進した。

ア SDGs特設サイトの運用 (うち 4,312千円)

SDGsの理念のほか、市民・企業・団体・行政といった活動主体の取組みを見える化するための情報のプラットフォームとして特設サイトを運用した。

【新】イ 地域・学生と取り組むSDGs活動の支援 (うち 519千円)

SDGs推進パートナー同士 (企業・地域団体・学生団体) による連携した取組みを支援した。

ウ 啓発活動等の実施 (うち 676千円)

啓発グッズの作成や学校等への出前講座の実施、職員研修を実施した。



■ 特設サイト



■ SDGs活動支援

② 企業・団体による活動の促進 (2,678千円)

SDGs推進パートナー制度の運用、パートナー同士のマッチング支援・セミナー (取組みの質の向上、連携の促進)、パートナーとの協力事業を実施し、企業・団体によるSDGsの活動を促進した。

ア SDGs推進パートナー制度の運用 (うち 718千円)

SDGsに積極的に取り組んでいる企業や団体等をパートナーとして登録する制度を運用し、多様な分野の主体と連携し、様々な取組みを推進した。

事業の概要

【拡】イ SDGs推進パートナーの支援（うち1,685千円）

すべての人が幸せに生きるためのキーワードである「Well-Being」をテーマとしたセミナー等を開催し、市民・パートナー等の参加者が地域共生社会の構築やSDGs推進にあたっての心構えやヒントを得る機会とした。併せて、SDGs推進パートナーによる取組みのパネルセッションも実施し、参加者へ各団体の取組みを周知した。

【新】ウ サンフレッチェ広島と連携したSDGsの推進（うち275千円）

サンフレッチェ広島レジーナの選手を市内小学校へ派遣してサッカー教室を実施し、スポーツを通じた子どもたちの健全育成の観点からSDGs推進を図った。

【新】エ イズミとの地域活性化包括連携協定の締結

地域活性化や市民生活の向上を目的として、子育て支援、地域福祉、地域社会のSDGsの推進などの事項について連携、協働する協定をイズミと締結し、連携事業を開始した。



■ パートナー宣言証



■ セミナー



■ サッカー教室



■ イズミとの包括連携協定